

世界に誇る  
奇跡のこと。

世界では失われつつある

ずっと、  
大事に守り続けてきたこと。  
大切なこと。

世界では失われつつある

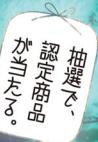
世界に誇る飛び切りの食材や、  
製品、サービス。伝統的なことに現代の知恵を加えた  
新しい価値ある品。

宮津だからこそ、

世界に誇れる本物。

あなたが思い浮かべる

宮津遺産を教えてください。

Four Elements & Happiness  
MIYAZU HERITAGE

# 宮津 遺産

みやづいさん

## 天地山海 のしあわせ

一人一人が誇る宮津遺産を。

### 第1回 市民推薦スタート

平成28年 7月20日  
～8月12日

【主催】宮津農水商工観連携会議

【お問い合わせ】☎ 0772-45-1106 (事務局 宮津商工会議所事業推進課内)

宮津遺産とは。～本年度は、食の認定を目指します～

宮津の美しい自然と、そこに暮らす人々の営みは、素敵な景観や豊かな歴史、貴重な催事や飛び切りの食文化を育み続けています。  
宮津遺産は、天地山海に息づく風土と、住み暮らす人々が織りなす、本物の「しあわせ」を集め、世界に伝えます。

きりとり

## 宮津遺産 市民推薦用紙

投票は、FAX送付(0772-25-1690 宮津商工会議所)または、お近くの地区連絡所、宮津市役所、宮津商工会議所の投票箱まで。

## 推薦する「こと・もの」①

## 推薦理由

## 推薦する「こと・もの」②

## 推薦理由

## 推薦する「こと・もの」③

## 推薦理由

## 推薦者のお名前／ご年齢

ふりがな

## 推薦者のご住所

## 推薦者のご連絡先電話番号

歳

# 宮津 遺産

MIYAZU HERITAGE  
みやづいさん

これまでの歩み。これからも歩み。

## 宮津農水商工観連携会議 設立

平成 26 年 3 月

「6 次産業化」、「地産地商（消）」、生産物が都市部で消費される「地産都商」を推進し、市内産業の活性化を図ることを目的に、商工・観光・流通・消費、農林水産業、金融、行政等の関係団体を構成員として設立。

市内事業者による市内産農林水産物等を使用した新商品の開発や既存商品の改良支援（平成 27 年度は新商品 7 品が完成）、

「宮津市農水商工観マッチングフェア」の開催、地産地消推進店の認証（34 店舗）、宮津天橋立とり貝昼処（22 店舗参加）の実施、販路開拓支援などに取り組んでいる。

## 宮津農水商工観連携会議 コンセプトづくり会議

平成 26 年 7 月～11 月

農水商工観の各ジャンルの事業従事者を中心とした市民有志のメンバー 12 人により、だんない宮津プロジェクトと銘打たれたチームは、アドバイザーに、福井 隆 東京農工大学客員教授を迎え、計 5 回の会議を行う。

コンセプトは、現場の声から作られた。

## 天 地 山 海 の しあわせ 宮津遺産【コンセプト決定】

平成 26 年 12 月

『宮津の風土（天・地・山・海）がもたらす豊かな恵みや、希少な産物を掘り起こし、磨く。そして、宮津遺産として発信し、宮津の豊かな暮らし（しあわせ）の楚として新たな価値を生み出す』との想いを込めて、コンセプトを決定。

宮津遺産認定事業の立ち上げを決定する。宮津遺産は、翌年、平成 27 年 7 月 10 日に商標登録された。

## 宮津遺産認定基準検討会議

平成 27 年 1 月～2 月

認定基準の策定に当たっては、利害が直接的に絡む事業従事者ではなく、宮津市内の主要団体関係者を中心とした 8 名で構成され、計 3 回の会議を行う。

宮津遺産認定基準を検討する中、コンセプトに込められた想いを実現するためには、

基準のみに留まらず、広く議論を深める必要があるとされ、その活動は、宮津遺産編集委員会へと引き継がれた。

## 宮津遺産編集委員会

平成 27 年 4 月～現在

上記の認定基準検討会議と同メンバーで構成。コンセプトに込められた想いを実現するため、その仕組みづくりを検討する。今までに、9 回の会議を行い、いよいよ、それぞれの取組が始動する。

### 『掘り起こす』

宮津遺産市民推薦を募集し、市民が誇る宮津の宝物を掘り起こします。（第一回 平成 28 年 7 月 20 日～8 月 12 日）

### 『磨く』

宮津体感モニタリング部を創部。市内外の有志を広く募り、宮津の宝物を体感することを通じ、

事業従事者とともに課題解決を図る仕組みを作りました。（第一回 宮津産育成とり貝 平成 28 年 6 月 19 日実施）

### 『認定する』

現在、宮津遺産認定審査会の設置を目指しています。農水商工観各分野の有識者を中心に、厳正な認定を行います。

そして、『伝える』から、その先へ。